

# 第8回京都陸協記録会

開催日:平成25年11月24日(日)

場所:西京極補助陸上競技場

種目	名前	学年	記録	着順	備考
5000m	床呂 沙紀	1年	16分48秒46	1組 8着 (31名中)	自己記録 17分09秒32 を更新
	港 菜月	1年	17分42秒85	1組 21着 (31名中)	初レース
3000m	尾崎 可南子	1年	10分34秒57	3組 20着 (41名中)	
	山田 郁香	1年	10分40秒95	3組 26着 (41名中)	

## 【山本コメント】

関西地区の大学生、高校生、中学生が多数参加した当記録会。日差しはやや強かったが、風はほぼなく、まずまずのレースコンディションの中でレースは開催された。

女子5000mでは、床呂が積極的かつ冷静なレース運びを進め、関西地区の他大学の選手たちとのぎを削り、自己記録を約21秒と大きく更新してゴールした。入学前は17分55秒だった記録を8ヶ月でここまで短縮したことは、日々の地道な取り組みの積み重ね、工夫の成果として高く評価できる。もっとも本人は現状に満足することなく、すでに次のレベルの目標を口にしており、今後のさらなる飛躍を期待したい。

港は、公認の5000mとしては初めてレース。レース後半まで大崩れすることなく走り切れたのは高く評価できる。しかし本人自身、もっと積極的なペースで前半から入っていくべきだったという感想を持っているので、次の機会ではもう一段高いレベルの積極的な走りに期待したい。

女子3000mでは、尾崎が5組中の3組目に出場。前半から先頭集団の前方で積極的にレースを進めたが、中盤以降にややペースダウンしてゴールした。それでも、2週間前より約12秒タイムを縮め、少しずつ上向いていることは確かである。練習での成果を、次のレースでは十分に発揮してほしい。

山田は、同組で尾崎より早く集団から離れて苦しい走りになったが、後半やや持ち直して粘ってゴールした。今回は調子がうまく合っておらず、記録としては2週間前より約10秒遅かった。次のレースを良い調子の状態で迎えられるよう、修正に期待したい。

今回一緒に走ったライバル校の頑張りやを常に意識して、チーム全体としてお互いに切磋琢磨する高いチーム力をもって、来年の駅伝予選に向けてステップアップしてほしい。